

倉掛新聞

〈発行所〉
倉掛自治連合会
井原市井原町倉掛
会長/渡辺研一

〈編集〉
倉掛自治連合会
倉掛婦人会
倉掛少年団育成会
消防井原分団第3

郷土愛で地域づくり

「税評価に見合う環境を」

自治会総会

平成十六年度の倉掛自治会総会が四月三日、第3部消防機庫で開かれ、各組の新任自治会長ら約五十人が出席して予算案などを審議、原案どおり可決した。

自治会長

知義市二子治実之次子春光夫治一明樹司昭夫枝治子志
則晴啓徹武頭 宏剛陽政重節君弘敏英秀勝徳幸俊玉伯

世帯数

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
(6)	(10)	(10)	(5)	(12)	(13)	(11)	(8)	(7)	(7)	(7)	(14)	(13)	(18)	(14)	(10)	(9)	(16)	(10)	(8)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

内は橋本戸岡本井田兼行原口上崎実橋藤野村田辺水田藤
船若宮関山岡藤前森笠安山井神吉倉佐岡塚小渡渡清松佐

総会の冒頭、自治連合会の渡辺研一会長は「倉掛の人々は固定資産税の評価に見合った生活環境を求めている。郷土愛の心を柱とするまちづくりを」と、自治組織強化を訴えた。

大坪前会長に感謝状

続いて三月末で自治連合会を引退した大坪正広前会長に対し、長期の献身的活動を讃え感謝状を贈った。



連合会が役員改選

会長に渡辺さん

平成十六年度倉掛自治連合会役員が左記のとおり決定し、会長には渡辺研一さんが就任した。

会長	渡辺 研一
副会長	妹尾 一成
会計	川相 益一
総務広報部長	長尾 謙治
消防部長	瀨川 芳隆
防犯交通部長	井上 勝史
福祉体育部長	松井 憲司
環境部長	倉橋 一郎
監事	川相 弘光
監事	細羽 正敏

このほか民生児童委員、サロンあすは代表、郷社総代を兼務する1組川相肇氏が「各自治会長をはじめ、



川上支部長ら協力要請

倉掛婦人会総会

皆様方の気配りで明るく住みよい倉掛地区を築きましよう」と、出席者に呼び掛けた。

倉掛婦人会が四月九日、平成十六年度支部総会を開き、年間活動などを取り決めた。新役員は従来どおり五人。支部長に就任した16組の川上薫さんは「婦人会の事はよく分かりませんが、協力を求めている。同婦人会役員は「近年、会員が減少傾向にあります。組織の維持発展には地域の皆様方のご理解が欠かせない」と話している。

倉掛少年団員名簿

学年	氏名	保護者
6年	濱田 和紀	好宏
	山岡 弘樹	理恵
	増成 大貴	実
	平井 温子	文子
	横田 博子	知吉
	森 生子	和美
5年	谷 知美	英良
	守屋 淳美	吉規
	岡藤 航平	史之
	川上 悟史	乃子
	小谷 咲乃	真奈
	小川 真奈	千尋
4年	神崎 翔平	友謙
	佐藤 航平	謙治
	吉川 直輝	理津
	浅井 祐理	和子
渡邊 琴美	美裕	

育成会長に谷さん

団長は山岡弘樹君

平成十六年度倉掛少年団関係者の役員構成と年間活動予定が決まった。

「団員は昨年より二人増えて十八人。キャンプは吉備高原です。清掃活動や廃品回収などを通して、地域の人達と交流を図りたい」と抱負を語っている。

《倉掛少年団育成会》

会長	谷 和政
副会長	濱田 好宏
副会長	小川 泰之
副会長	平井 文子
副会長	神崎 友子
会計	川上 吉弘

《倉掛少年団》

団長	山岡 弘樹
副団長	谷 知美

防犯灯の新設受付

電気料は個人負担

自治連合会 電気料は個人負担

早朝や夜間の安全に役立つという防犯灯（公衆街路灯）の新設を倉掛自治連合会が受け付けている。

倉掛地内には約七十の防犯灯や水銀灯があるものの、必要と思われる場所に無いなど、一定していないのが実状。

自治連合会の井上勝史防犯交通部長は「器具の設置及び修理費用は自治会が負担。個人負担となる電気料金は一灯あたり年間三千元程度です」と説明し、スポーツカーを募集している。

せませんと話している。写真上左から増成容子さん・濱田由美さん・川上薫さん・佐能直子さん・西山元子さん

〈倉掛婦人会役員〉

支部長	川上 薫
副支部長	会 計
文化教養	濱田 由美
福祉生活	佐能 直子

- 保健体育 増成 容子
- 〈主な活動予定〉
- ① 栄養教室参加
 - ② 婦人学級参加
 - ③ 早朝街頭交通指導
 - ④ 研修親睦旅行
 - ⑤ 井原町盆踊り参加
 - ⑥ 井原町敬老会
 - ⑦ 婦人防火クラブ参加
 - ⑧ いきいき・ふれあいサロン参加

歌い踊り親睦図る

いきいきサロンに46人 サロンあすは 郷社で福祉学習と花見



サロンあすはの集いが三月三十一日午前十一時から郷社境内で開かれ、会員ら四十六人が参加した。開会に先立ち川相肇代表が「多くのご参加を頂き有り難い。しつかり楽しんで下さい」と挨拶。続いて井原医師会在宅介護支援センターの高橋尚主事が「健康面だけでなく、オレオレ詐欺などにも十分気をつけて下さい」と、生活全般に関するミニ講話を行った。

お楽しみ会では炭坑節や草津節の民謡に合わせて踊りの輪ができるなど、良き時代の花見が蘇った。

11組片岡春枝さんは「随分と盛り上がりましたね。

近頃は人々が疎遠になりがち。お互いに元気で頑張りましょう」と、サロン拡大を呼び掛けた。

春雨で人出鈍る

桜満開の郷社まつり



巫女舞いを奉納する(左から)倉掛16組佐能紗耶香さん、夏目地区佐藤ひふみさん、同藤井采佳さん、倉掛5-2組細羽いづみさん

境内に満開の桜が咲き乱れる郷社足次山神社の大祭が四月四日に執り行われた。日曜日と重なったものの、前夜からの雨で参拝者の出足はやや鈍った。午前十時からの祭典では

倉掛と夏目の女子四人が巫女の衣装に身を包み、優雅な舞いを奉納した。

祭りを終えて境内に静けさが戻った午後五時半から、倉掛少年団員と同育成会員が清掃奉仕作業に精を出した。

倉掛ほっと情報

井原 原中学校PTA新聞がこのほど、第5回岡山県PTA広報紙コンクールで「県PTA連合会長賞」を受賞した。これは各学校が発行している広報紙の資質向上を図ろうと行われているもので、小・中学校から計191点の応募があった。同中学校は過去にも中国新聞社が主催した同様のコンクールで大賞を受賞しており、広報部の評価が一段と高まっている。

昨 年度倉掛婦人会が井原分団第3部消防機庫へ座布団10枚を寄贈した。同婦人会はこれまで座布団や座卓などを贈り、機庫の備品充実を図ってきた。第3部の柳本兼志部長は、「お心遣いには恐縮しています。有り難うございました」と感謝している。

倉掛 地内に関係するフレスタ以北の井原駅前通り東側歩道拡張工事が3月末で完了。一昨年12月の西側面着工から1年4ヶ月を要した工事はすべて終わり、駅前通りの景観は一体化すると共に、街路樹の植えかえで住民から苦情の多かった「落ち葉の悩み」も解消した。

◆ 行事予定 ◆

- 4/18 井原町春季球技大会 (井小) 開会式 8:30~
- 4/25 倉掛少年団桜記念植樹 倉掛公園 9:00~
- 5/8 資源の日 古紙・古着等収集 7:30~9:00
- 5/14 事業所自治会費集金
- 5/15 自治連合会防犯パトロール
- 5/16 倉掛少年団清掃奉仕作業 8:30~
- 5/23~30 倉掛全戸溝掃除 (8日間)
- 6/6 汚泥回収 8:30~
- 6/6 消火器薬剤入替 10:00~
- 6/6 倉掛少年団廃品回収 8:30~
- 6/6 消防団第3部試運転日
- 6/12 資源の日 古紙・古着等収集 7:30~9:00
- 6/19 自治連合防犯パトロール
- 6/20 井原学区少年団球技大会
- 7/10 資源の日 古紙・古着等収集 7:30~9:00

電話を掛けると「はい、倉掛公民館です」と、女性職員さわやかな声が…。夢ではなく現実だ。といつても広島市安佐北区倉掛のお話し。当地倉掛と同じ地名は全国にいくつもあるだろうが、お隣り広島に私たちが建設を願っているのと同じ名称の「倉掛公民館」が実在していた。

広島市の倉掛地区は新興住宅団地であって約6450人(約2450戸)が住み、何と倉掛小学校もあるという。私たち井原の倉掛

見つけました

とは規模において比較にならない。

寺尾昭二館長は「この辺りは西日本モデルタウンとして、昭和40年代後半に造成され発展しました。これをご縁に宜しく願います」とのこと。

広島市の倉掛公民館は平成元年四月に完成。250人収容のホールをはじめ、二つの研修室や会議室・図書室・和室などを有し、地域の活動拠点として多くの人々に利用されている。

(倉掛新聞編集委員会)

「はい、倉掛公民館です」

広島市安佐北区倉掛に実在



育成会の谷和政会長は、「最近皆さんのマナーが向上してゴミの量が減りました」と話していた。

情・秩序・奉仕の心を育み、子供たちに夢と希望を与えたい」として活動支援を要請。このほか、連合会役員の建設的な意見が掲載されている。

また、昭和52年と53年に郷社で開催された倉掛運動会のビデオテープも出てきた。開局前後の井原放送が撮影したもののみならず、高くない。希望者には貸し出しも行。申し込みは自治連合会役員まで。

「りやー懐かしい」

自治会会報や運動会ビデオ 書類整理中見つかる

このほど倉掛自治連合会が古い書類などを整理中、昭和46年4月25日に発行した「倉掛自治連合会会報」の創刊号が見つかった。紙面はB5版4ページ。当時会長だった故妹尾梅夫

さんの「区画整理事業も日に姿を整えつつある」と、倉掛の発展を綴った挨拶に始まり、故山岡昇市長や山岡盛男元市議の創刊祝辞が続く。少年団育成会長だった妹尾磯吉さんは「友